

# 独法土研

2001. 8.10

創刊号

8月

独立行政法人

土木研究所

茨城県つくば市南原 1 番地 6  
TEL : 0298-79-6700

## 独立行政法人土木研究所の発足にあたって



初代の理事長に就任いたしました坂本でございます。私は昭和 4 2 年に建設省土木研究所に採用され 4 年間の研究生活の後、行政部門に異動しました。そして、平成 7 年 1 1 月に 3 1 代目の所長として再び勤務し、平成 8 年 1 1 月に退職いたしました。その後、民間の財団法人で勤務していましたが、このたび土木研究所で三度目の勤務をすることとなり不思議な縁だなと思っています。

初代の理事長としての私の役割は、独立行政法人化が土木研究所およびその職員にとって結果的に良かった選択となるような環境を整えることだと考えています。皆様の御支援、御協力を御願いたします。

独立行政法人の性格、役割はここでは詳述しませんが、私は次の 2 項目を強調したいと思います。第 1 は、研究の質の向上です。独立行政法人となり、その研究予算は本省からなかば、自動的に配付されるシステムから良い課題に対し交付金が交付されるシステムに変更になりました。また、文部科学省、環境省などの競争的資金と呼ばれる研究費より、他の大学や研究所と競争して研究費を得ることが重要な課題となります。このためには、研究者の質の向上が何よりも重要な要素となります。具体的には博士、技術士等の資格の取得をすすめます。また、国内の学会はもちろん、海外の学会で口答発表を許可された者は、どんなに若い人でも、何回でも海外出張ができるようにして活性化を図ります。留学（海外、国内）の機会を得た人には積極的にそれを支援します。

第 2 は、研究の効率的実施です。例えば民間企業と行う共同研究という制度があります。従来は土木研究所提案の研究課題に対して、共同研究先の選定は、民間各社の公平性を主眼としていましたが、今後は、民間提案の課題、選定は実力、熱意等を基準とした方式（民間提案型）も併用することとしています。

共同研究に限らず、研究の効率的実施のため各種の規定類は国のものを準用しているものが多いのですが、順次改正して、独法色を強めたいと思います。皆様の積極的な提案を期待します。

### 創刊号もくじ

理事長あいさつ	1
役員紹介	2
理事長表彰行われる	4
研究計画研修	6

長期海外派遣者帰国報告	7
ここからだ	9
お知らせ	10
つくば近郊のイベント情報	13

## 役員 の 紹 介

### 田中理事の紹介



このたび、独立行政法人土木研究所の発足にあたり、理事に就任しました田中です。歴史と伝統をもつ土木研究所で、皆様と一緒に仕事ができることを大変うれしく思っています。

経歴は、本省及び関東、四国、九州の地方整備局等の行政部門を歩き、土木研究所つくば勤務は、はじめてです。

土木研究所は緑に囲まれたすばらしい研究環境で、研究所の中を案内してもらった時の広いスペース、また雉の親子やサシバ（タカ）を構内で見かけたのが印象的でした。

土木研究所の前の職場は、本省総合政策局建設施工企画課で、建設技術の開発、普及を担当していました。技術開発という点で土木研究所との共通点があると思っています。

趣味は、双眼鏡片手に、野山の散策をすることです。つくば市には、洞峰公園、乙戸沼公園、宍塚大池等絶好のバードウォッチングポイントがあるので、休日には時々散歩し楽しんでいます。

新しく技術推進本部が設置されましたが、部長も兼任しています。ここでは、産学官連携等の研究コーディネート、特許等知的所有権の取得、実用化方策の検討、研究成果の普及促進等を実施しています。独立行政法人土木研究所のセールスポイントの1つは、民間企業との共同研究であると思っています。皆様の研究開発の成果があがるよう側面から支援し、努力したいと考えていますのでよろしくご支援のほどをお願いします。

### 堀監事の紹介



このたびの独立行政法人土木研究所の発足にあたり、監事に就任しました堀 才大でございます。図らずも、土木研究所の名誉と伝統を引き継ぎ、つくばの地で皆様と一緒に仕事をすることになりました。

伊勢神宮に近く、三重県多気郡明和町（海岸部）に生まれ、高校まで温暖なる三重県の風土に生活し、大学で初めて港町横浜に出、卒業以来、地建は中国地方建設局、地方勤務はあと阪神高速道路公団ということであります。

本省以外の勤務は、経済企画庁、総務庁、公団関係は阪神高速以外に水資源開発公団、日本下水道事業団ということで、土研の経験はありませんが、ただ、柏近くに住居をかまえたこともあり、筑波山あたりに遊びにきたときに、土研の広大さにびっくりした思いがあります。

趣味は硬式テニス（流山市内の江戸川台テニスクラブに所属）、麻雀ですが、昔とちがいがい、麻雀の方は時代にとりのこされた感じもありますので、テニスの方でおつきあい

したいと思っています。

監事という職務上、本来的には監査業務ということになりますが、独立行政法人となった趣旨から、行政に対する第三者評価の視点を踏まえ、基礎研究、実用研究ともども、国民 NEEDS を志向した研究ということを常に念頭においていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

## 池田監事の紹介



### [ ] 「自己紹介」

土木研究所の監事（非常勤）に就任いたしました池田成樹でございます。現在、東京海上火災保険(株)の常勤顧問を兼任しております。

東京海上火災には、1965年入社、人事部を振り出しに、石油化学、プラントメーカー営業部、建設工事保険引受業務部、ロンドン駐在員、米国室長、ニューヨーク首席駐在員、海外業務部長、アジア担当取締役を経て、昨年より常勤顧問を勤めております。

土木研究所の業務とは全く接点のない経歴ですが、よろしくお願い致します。

### [ ] 「みなさんに期待すること」

畑違いの素人の私が言うのもはなはだ僭越ですが、思いつくまま、いくつかならべさせていただきます。

- (1) 今更あらためて言うほどのことではありませんが、倫理規程をはじめ、コンプライアンスの観点に注意した行動をとっていただくことが、まずは基本かと思えます。
- (2) みなさんの中期計画をしっかりと念頭に置き、その必達を期待しています。特に、進捗度合、ターゲット期限をしっかりと見すえながら具体的アクションプランを実行してゆくことが肝要と思えます。
- (3) 当研究所は、営利企業ではありませんが、経費の支出をはじめ、資金の投下にあたっては、「コストパフォーマンス」すなわち、支出以上の見返りを得る見通しがしっかりしているかがポイントですし、不可欠です。
- (4) 土木研究所は、こんなに意味のある立派な仕事をやったと、外部から見ても納得感のある「成果」を挙げることを期待しています。そして、更にその「成果」が、結局どういう「効果」を国民にもたらすことになるのかも、極力定量的に示していただくと外部の者にも納得感が出るのですが。

以上、状況がまだ十分に理解できていない中で、いろいろと申し述べさせていただきましたが、今後とも、自由闊達な、風通しの良い職場づくりにお互い努力していきたいと考えています。

## 理事長表彰行われる

今年度から設けられた国土交通Day（7月16日）の行事の一環として、去る7月17日土木研究所講堂において平成13年度独立行政法人土木研究所理事長表彰が行われました。

表彰は、優良業務等表彰として国土交通省旧土木研究所が平成12年度に発注した委託業務において、その成果及び業務への取り組みが特に優良であった受注者7社及びその技術者4名、また、業績表彰として3名、永年勤続表彰として30年勤続2名及び20年勤続6名の方々が受賞され、坂本理事長から表彰状及び記念品が授与されました。

表彰後、坂本理事長の挨拶があり、また、受賞者を代表して苗村総括研究官が謝辞を述べられました。

なお、受賞された方々及びその業績等は次のとおりです。

### 優良業務等表彰

【各調査業務等において優秀な成果を挙げ、土木技術の向上に貢献。】

#### 優秀技術者

株式会社環境技術研究所 三神泰介氏  
・沿道における浮遊粒子状物質の実態把握に関する調査業務（その2）

株式会社建設技術研究所 高田保彦氏  
・実物大ふとんかご水理変形特性把握実験業務

日本工営株式会社 高野 登氏  
・ダム・堰・水門等の設備設計基準の性能規定化資料作成（その2）業務

八千代エンジニアリング株式会社 佐々木協一氏  
・鉄筋コンクリート橋脚の修復性に関する正負交番載荷実験業務

#### 優良業務

株式会社建設環境研究所  
・千曲川における魚類潜水観察及び魚類調査補助業務

株式会社長大  
・対風応答データベース入出力部作成業務

帝人エコ・サイエンス株式会社  
・環境ホルモンの測定方法検討業務

株式会社日建設計  
・有明沿岸道路の盛土部地震安定性に関する実験解析業務

株式会社日水コン  
・下水処理場データの活性汚泥モデル適用業務

日本工営株式会社  
・平成12年度横川ダム地すべり強制載荷実験管理業務

株式会社野生動物保護管理事務所  
・生態ネットワーク計画のための哺乳類分布・生態調査業務

## 業績表彰

【多年にわたる研究業績又は各研究業務における技術的手法の開発等において、優秀な成果を挙げ、業務の推進に寄与。】

苗村正三氏（技術推進本部総括研究官）  
・盛土構造物の設計・施工・維持管理に関する研究

松浦直氏（水工研究グループ）  
・二偏波レーダの運用方式の開発

秋田直樹氏（構造物研究グループ）  
・橋梁基礎構造の形状調査・損傷調査方法の開発



受賞者を代表して謝辞を述べる苗村総括研究官

## 永年勤続表彰

【多年にわたり職務に精励し、優秀な成績を修め、業務の推進に寄与。】

30年勤続

豊田光雄氏（水工研究グループ）  
阿部悦氏（新潟試験所）

20年勤続

飯塚幸子氏（総務部職員課）  
本郷康嗣氏（総務部会計課）  
栗原康雄氏（総務部会計課）  
近藤益央氏（企画部研究企画課）  
宮本淳子氏（企画部研究企画課）  
大下武志氏（技術推進本部）



受賞された職員の方々と幹部職員

（総務課）

## 平成13年度研究計画研修Ⅱ開催される

若手職員を対象に、研究者や技術者としての資質の向上を図ることを目的とした研究計画研修が7月24日（火）から7月27日（金）まで土木研究所および国民宿舎水郷（土浦市）にて実施されました。研修には、平成12年度に新規採用された技術系職員5名と4月に地方整備局から異動してきた技術系職員2名の合計7名が参加しました。研修は事務局より与えられた課題に対して、研修生が研究計画書を作成し、講師による講義や討議をもとに計画書の修正を行い、完成したものをプレゼンテーションするものであります。

初日は、開校式に続き、田中理事による”独立行政法人土木研究所における今後の研究の方向性や位置づけ等に関して”の講話、水循環研究グループ佐合グループ長より”研究について”，構造物研究グループ平原上席研究員より”問題意識の持ち方，研究計画の立て方”，耐震研究グループ運上上席研究員より”データの見方，論文のまとめ方，発表の仕方”の講義がありました。2日目は、外部講師として鹿島建設技術研究所副所長の阿部氏を招き、”民間建設技術研究所における技術開発動向および土木研究所への期待”と題した講演会が開催され、研修生以外にも大勢の聴講者が参加し、質疑の時間では熱心な討議が繰り広げられました。3日目は、（株）話し方研究所の講師により、”プレゼンテーションの基本”についての講義が行われました。講義では発表形式の実習も行われ、講師より各研修生に注意すべき点や工夫すべき点について指導をいただきました。最終日は、研修生により作成された研究計画書のプレゼンテーションが行われ、講師により熱心な指導をいただきました。

短期間ではありましたが、密度の濃い充実した内容の研修でありました。これも今回の研修講師を快く引き受けていただいた方々のおかげであります。ここに感謝の意を表します。そして研修生の皆様、お疲れさまでした。



鹿島建設阿部氏による講演会



研究計画書のプレゼンテーション

（研究企画課）

## 研究計画研修 を終えて

耐震研究グループ耐震チーム 塩島 亮彦



今回の研修では、名前の通り、研究を行う際の計画の立て方や計画書の作成・説明の仕方について学ぶことが出来ました。研修前半部には、研究計画の立て方や論文のまとめ方等についての内部講師による講義が行われましたが、長年研究に携わっておられる方々の言葉には重みがあり、大変参考になりました。特に、新聞等や他の研究室の人からも情報収集し、常に問題意識を高めておくことや、よい論文を書くためには数多く論文を読み、数多く論文を書くことなど、今後業務を行っていく上で重要なアドバイスを得ることが出来ました。

また、7人の研修員を3班に分けて行われた「研究計画書の説明と討議」では、与えられた五つの課題の中から一つを選び、その課題を検討・解決するための研究計画書を実際に作成し、プレゼンテーションを行いました。最初の発表では、講師の方々の前に見事に撃沈しましたが、修正を行って臨んだ2度目の発表では、まあまあの説明が出来たのではないかと思います。それでも、「土研で行う必要性や、研究の目的、それを達成するためにどのように研究を進めていくのかということをもっとはっきりと説明するように」等の御指摘を受け、研究計画を立て、それについて説明することの難しさを痛感させられました。

これら以外にも、プレゼンテーション技術についての講演があるなど、期間的には短いものでしたが盛りだくさんの内容の研修で、この研修に参加して得られた事柄を今後に生かせるよう、努力していきたいと思えます。

最後に、本研修において、御助言、御指導を賜りました方々、また、事務局として働いてくださった方々にこの場を借りて感謝の意を表したいと思えます。

## 長期海外派遣者帰国報告

水循環研究グループ 伊藤 弘之



平成11年5月より2年間、タイ国のバンコクにおいてJICAの長期専門家として勤務し、本年5月に帰国した。出発前は、海外勤務はもとより無く、英話も満足にできない状況であったが、JICAでの1ヶ月程度の研修を終えると、家族とともに、あわただしくバンコクに降り立った。バンコクは十年ぶりだったが、高層ビルが建ち並び、大都市の様相を呈していた。

私の派遣先機関は、国家水資源委員会事務局と呼ばれる機関で、首相府の中に設けられている。60人ばかりの組織で、



カウンターパート（中央2人）の結婚式

7割以上を女性が占めていた。タイ国では、水資源開発は盛んに行われてきたものの、水資源管理に係わる官庁間の政策・事業の調整がとられていない、水使用に関する制度・規則が整備されておらず、使用者間の衝突が絶えない、洪水対策を進める制度が整備されておらず、洪水による死者、被害が絶えないといった問題を抱えている。これらの問題を解決するために、設けられたのが、関係官庁の代表者より構成される国家水資源委員会であり、その事務局である国家水資源委員会事務局である。

国家水資源委員会事務局では、包括的・効率的な水資源管理を行うためのシステムを整備するため、水資源法案の立法化、流域委員会の設立、水使用のための規則作り等について検討しており、私も、彼等の仕事をサポートすべく、河川法等を中心とした日本の水資源管理に関する制度やシステムを紹介することを、仕事の中心とした。

仕事は英語で行ったが、日常会話はタイ語以外通じない。タイ語は、抑揚のつけ方が難しいが、文法は比較的英語に近く、それほど難しくはない。タイ語を話すと、職場の人間も喜んでくれるし、タクシーでボラれることも少なくなった。

タイの人々の性格は、総じておおらかで、のんびりしており、初対面の人間に対しても、非常にフレンドリーである。しかし、その一方で、責任感が薄い、自分の意思をはっきりさせない等、日本人にとっては、やや腹立た



2000年11月タイ国南部の中心都市ハジャイを襲った洪水の様子  
(タイ国南部一体で約60名が死亡)

の恵まれた自然環境により育まれたものであろう。タイ国では、国土が広く、温暖で、乾季はあるものの降雨量は豊富であり、様々な農産物に恵まれてきた。

このため、あくせと働かずとも飢え死にすることもなく、効率性よりも、自由・気ままを重んじる社会風土が形成されたものと、私は考えている。仕事を円滑に進めるためには、このような社会、人間関係に慣れ、溶けこむことも大事なことであり、郷に従ってきたが、それでも、しばしばストレスを感じることもあった。

バンコクでは、1999年に高架鉄道(スカイ・トレイン)が開通し、これと交差するように建設された地下鉄も間もなく開通となる。バンコクの発展、インフラ整備は目覚し

いものがあるが、その一方で貧しい東北地方では、所得はバンコク首都圏の1/8に過ぎず、洪水や水不足の被害も絶えない等、社会的・経済的な問題も多く残されている。

今後、より一層の国家の発展が望まれているが、そのためには、整備されたインフラ等の先行投資を活かして、社会の効率性を高めるためのシステム構築が重要であり、国家水資源委員会事務局の取り組みも、その一貫であると考えている。

タイは、「歩みは遅いが、着実に進む」という意味で、象に例えられることが多い。これまで、インフラ整備等を重視した物質的な発展を邁進してきたこの象も、今後は、効率性を目指した制度・システム作りの方向に、進路を修正していこうし、その点について、日本も多くの分野で技術協力の余地があるだろう。

そんなことを思いながら、バンコクを後にした。

なお、在タイ中は多くの方々に御世話になった。この場を借りて、御礼を申し上げたい。

## こころとからだ － 熱中症について －

今年の夏は例年になく暑い日が続き、体調を崩されている方も多いのではないだろうか。

こころとからだの第1回目は、ニュース等で頻繁に報道されている熱中症についてご紹介致します。

### 1. 熱中症とは

人間は、気温が高いと汗をかいて体温を下げようとするのが正常の反応ですが、長く暑い場所に居ると汗をかきすぎて脱水症状を起こすことにより、体温を調節する機能が停止し、体温のコントロールが効かなくなる症状をいいます。

暑くてそれまで汗をかいていたのに急に鳥肌が立ったり、足や腹筋に痙攣が起き始めたら熱中症のシグナルです。症状がさらに進行すると、めまい、頭痛、発熱、吐き気、失神、意識障害、肝機能障害等の症状がみられ、時には死亡に至るケースがあります。

### 2. 予防法について

#### (1) 水分補給を行いましょう

気温が高い日は特に多量の汗をかくことが多く、脱水症状になる危険性がありますので、水分を補給するようにしましょう。なお、スポーツドリンクは水分の他に塩分及び糖分も摂取できますのでおすすめです。逆に、摂りすぎはいけないのがお茶です。お茶に含まれるカフェインには利尿作用があるため、体に水分を蓄える前に水分を尿として排出してしまいます。



(2) 体調を整えましょう

下痢、発熱、疲労等で体調の悪い場合には熱中症にかかりやすくなります。規則正しい生活を心がけ、体調を整えましょう。

(3) 服装に気をつけましょう

服装は軽装にし、吸湿性・通気性のよい素材及び遮光性の色（白系統）を選びましょう。また、帽子をかぶり直射日光から身を守りましょう。Yシャツを着ている場合には、一番上のボタンを外すことで体感温度が3 程度下がるそうです。

3. 発症した場合には

涼しい場所に移動し、衣服を緩め、水分を補給しましょう。また、首、脇の下、足の付け根など体の動脈部分を冷やすことも有効です。症状が重い場合には、速やかに医師の診断を受けることが必要になります。

(職員課)

お 知 ら せ

発足からこれまでの主な出来ごと

1. 所内行事

4月2日	独立行政法人土木研究所開所式、新規採用職員入所式
5月28～30日	UJNR耐風・耐震構造専門部会第33回合同部会
6月12日	独立行政法人土木研究所発足記念式典・レセプション

2. 一般公開等

4月20日	科学技術週間の一般公開
8月7日	「つくばちびっこ博士」事業による施設公開



液状化について質問するちびっこ博士参加者



強風を体験するちびっこ博士参加者

人事異動(平成13年4月9日以降)

年月日	区分	氏名	旧官職	新官職
13.4.9	配置換	皆川 朋子	水循環研究グループ研究員(河川生態)	水循環研究グループ研究員(河川生態)分室(自然共生研究センター)
13.5.1	出向	川名 万寿雄	企画部業務課副参事	国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター高度道路交通システム研究室主任研究官
13.5.14	転任	伊藤 弘之	派遣(河川局河川計画課長補佐)	水循環研究グループ主任研究員(河川生態)
13.5.16	出向	中野 穰治	技術推進本部主任研究員(施工技術)	国土技術政策総合研究所企画部研究評価推進課主任研究官
13.6.1	辞職	古川 倫義	新潟試験所	
13.6.1	転任	川崎 茂信	国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター高度道路交通システム研究室主任研究官	基礎道路技術研究グループ主任研究員(舗装)
13.6.22	出向	寺田 秀樹	土砂管理研究グループ上席研究員(火山・土石流)	国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター砂防研究室長
13.6.22	転任	渡 正昭	派遣(河川局河川計画課長補佐)	土砂管理研究グループ上席研究員(火山・土石流)
13.7.1	出向	島谷 幸宏	水循環研究グループ上席研究員(河川生態)	九州地方整備局武雄工事事務所長
13.7.1	出向	安 和博	総務部会計課長	大臣官房技術調査課長補佐
13.7.1	昇任	本郷 康嗣	大臣官房会計課付 (内閣府沖縄総合事務局開発建設部管理課契約管理官)	総務部会計課長
13.7.1	転任	小野寺 誠一	派遣(道路局企画課長補佐)	技術推進本部主任研究員(施工技術)
13.7.1	転任	阿部 千雅	関東地方整備局利根川下流工事事務所建設専門官(併河川部河川調整課)	材料地盤研究グループ研究員(リサイクル)
13.7.1	転任	柴田 光博	国土地理院測図部国土基本図課	材料地盤研究グループ研究員(地質)
13.7.1	転任	安部 勝也	自動車交通局技術安全部審査課係長	耐震研究グループ研究員(振動)
13.7.20	転任	尾澤 卓思	河川局河川計画課企画専門官	水循環研究グループ上席研究員(河川生態)
13.8.1	出向	小橋 秀俊	材料地盤研究グループ主任研究員(土質)	近畿地方整備局企画部環境審査官
13.8.1	出向	川崎 茂信	基礎道路技術研究グループ主任研究員(舗装)	国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター高度道路交通システム研究室長

職員の学位取得

学位受領者 土砂管理研究グループ(火山・土石流) 山越隆雄  
 学位の名称 京都大学博士(農学)  
 学位論文題目 噴火後の火山斜面における降雨流出・土砂流出特性の経年変化に関する研究  
 授与日 平成13年7月23日



独法土研職員の表彰

受賞者 材料地盤研究グループ 三木博史  
表彰名 研究功績者表彰  
業績 地盤対策技術に関する研究  
授賞機関 文部科学省  
受賞年月日 平成13年4月18日

受賞者 耐震研究グループ(振動) 齋藤由紀子  
表彰名 創意工夫功労者表彰  
業績 遠心模型実験による地震地盤流動破壊現象の再現技術の考察  
授賞機関 文部科学省  
受賞年月日 平成13年4月18日

受賞者 耐震研究グループ(耐震) 星隈順一、運上茂樹  
表彰名 構造工学シンポジウム論文賞  
業績 大規模地震時における水中橋脚の挙動と動水圧の評価法  
授賞機関 (社)土木学会・(社)日本建築学会  
受賞年月日 平成13年5月8日

受賞者 耐震研究グループ(耐震) 運上茂樹(他1名による共同受賞)  
表彰名 構造工学シンポジウム論文賞  
業績 免震支承のハードニング特性に着目した免震支承と橋脚に塑性化が生じる免震橋梁の地震時応答特性に関する研究  
授賞機関 (社)土木学会・(社)日本建築学会  
受賞年月日 平成13年5月8日

受賞者 材料地盤研究グループ(新材料) 明嵐政司(他3名による共同受賞)  
表彰名 研究功績賞  
業績 多孔質弾性舗装の自動走行騒音低減効果  
授賞機関 (社)日本騒音制御工学会  
受賞年月日 平成13年5月23日

受賞者 土木研究所(他民間4者による共同受賞)  
表彰名 業績賞  
業績 耐液状化格子状深層混合処理工法の開発と実施  
授賞機関 (社)日本建築学会  
受賞年月日 平成13年5月30日

受賞者 材料地盤研究グループ(新材料) 明嵐政司(他4名による共同受賞)  
表彰名 技術賞  
業績 沖縄ロードパークFRP歩道橋の開発  
授賞機関 日本複合材料学会  
受賞年月日 平成13年6月4日





## つくば近郊のイベント情報

### 【とりで利根川大花火】

8 / 11 (土曜日) 19:30 ~ 21:00 場所 取手市取手緑地運動公園  
取手市観光協会 TEL 0297(74)9861

### 【からかさ万灯】 直径5メートルのからかさによる仕掛け花火、県指定無形民族文化財

8 / 15 (水曜日) 21:00 場所 新治村鷲神社  
新治村経済振興課 TEL 0298(62)3511

### 【石下将門まつり】

8 / 15 (水曜日) 18:00 ~ 22:00 場所 石下町役場前  
石下町商工観光課 TEL 0297(42)3111

### 【あゆみ祭り】 ドラゴンボートレース、帆引船、花火大会などのイベント多数

8 / 16 (木曜日) 11:00 ~ 21:00 場所 霞ヶ浦町歩崎公園  
霞ヶ浦町産業課 TEL 0298(97)1111

### 【利根町納涼花火大会】

8 / 17 (金曜日) 20:20 ~ 21:30 場所 利根町利根川河川敷  
利根町観光協会 TEL 0297(68)2211

### 【伊奈の綱火(高岡流)】 仕掛け花火の人形劇、国指定重要無形文化財

8 / 23 (木曜日) 19:30 ~ 21:00 場所 伊奈町高岡愛宕神社  
伊奈町産業経済課 TEL 0297(58)2111

### 【伊奈の綱火(小張松下流)】 仕掛け花火の人形劇、国指定重要無形文化財

8 / 24 (金曜日) 19:30 ~ 21:00 場所 伊奈町小張愛宕神社  
伊奈町産業経済課 TEL 0297(58)2111

### 【ひまわりフェスティバル】 80万本の八重ひまわりと40種類の世界のひまわり

8 / 25 (土曜日) ~ 9 / 9 (日曜日) 9:00 ~ 18:00  
場所 明野町花とやすらぎの里  
明野町役場まちづくり課 TEL 0296(52)1111

### 【えどさき夏まつり花火大会】

8 / 25 (土曜日) 19:00 ~ 21:00 場所 江戸崎町江戸崎運動公園周辺  
江戸崎町企画財政課 TEL 0298(92)2221

### 【まつりつくば2001】

9 / 1 (土曜日) 12:00 ~ 21:00 場所 つくばセンター~中央公園  
9 / 2 (日曜日) 10:00 ~ 21:00  
つくば市商工観光課 TEL 0298(64)5980



## 編集後記

土木研究所の職員の皆様には、4月の組織発足依頼、所内各部署において大変御活躍をいただいておりますことを同胞の一人として嬉しく思っております。また、皆様のおかげをもちまして、独立行政法人の業務体制もようやく整備されてきたように感じております。さて、この度、総務部及び企画部関係各課の御協力の下に、今後の職員の皆様の一層の御活躍に資するべく、当研究所における広報誌を、電子媒体を活用して提供していくことに致しました。職場紹介や時節柄のお知らせ、また有益な寄稿の掲載など、職員の皆様に楽しく爽やかな情報を提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

なお、編集委員会は、総務部及び企画部の各課長ほかで担当します。寄稿、紹介事項等がありましたら、総務課までお知らせ下さい。ご連絡をお待ちしております。

T . K